

## サムエル記下 23 章 8～39 節

2026 年 1 月 21 日(水)

はじめに

本日は、サムエル記下 23 章 8～39 節を学びます。小見出しに従うと、この部分は「ダビデの勇士たち」について語っています。実際、輪読してみると、勇士たちの武勲のエピソードと 30 人の勇士たちの名を紹介しています。しかし大きな出来事や事件を語っているわけではありません。

そのためここから何も学ぶことなく、通り過ぎていくこともあるかもしれません。しかしここには、やはりわたしたちの聞くべきことが語られています。勇士たちは、ダビデ王のために、また主なる神のために戦いました。ということは、彼らは勇士ですが、それ以上に奉仕者たちである、ということです。ここに世俗の国家の勇士との違いがあります。自分の名誉を求めるのが、世俗の勇士であるなら、神の栄光のために奉仕するのが、イスラエルにおける勇士たちです。

このことは、本日の個所がダビデの「感謝の歌」の次にきていることから分かります。ダビデ自身、主の救いによって強められた者です。従ってまた、彼に仕える勇士たちもその点同じです。こうして勇士の武勲は、手柄話や自慢話ではなく、ダビデの感謝の歌に連なるわけです。

- ①21 章 1～14 節ダビデ治世下の大飢饉
- ②21 章 15～22 節ペリシテ人との戦い
- ※22 章 1 節～23 章 7 節ダビデの感謝の歌と最後の言葉。
- ③22 章 8～39 節ダビデの勇士たちの紹介
- ④23 章 1～25 節ダビデの人口調査という罪

ご覧のように、※の 22 章 1 節～23 章 7 節のダビデの感謝の歌と最後の言葉を中心にして、ダビデ王の治世下での四つの出来事が語られているわけです。ダビデ王治世下の大飢饉、ペリシテ人との戦い、ダビデの勇士たちの紹介、そしてダビデの人口調査という罪についての記事です。これらは、時系列的に起こった出来事というよりも、ダビデの「感謝の歌」と「最後の言葉」との密接な関連で理解すべきものと思われます。つまり主の救いによって強められた者の筆頭がダビデ王であり、それに続き勇士たちも主の救いによって強められた者たちである、ということです。

### I サムエル記下 23 章 8～39 節の話の流れ。

この箇所は、8～23 節では、三勇士について、そのエピソードと共に語られています。続く 24～39 節までは、その三勇士に従う 30 名の勇士たちの名前が紹介されています。箇条書きにすると、次のようになります。

- 第一部 8～23 節 三勇士のエピソード
- 第二部 24～39 節 他の 30 名の勇士たちの名前の紹介

なお、「30 人の勇士」は、実際には、全員で 37 名います。「30 人の勇士」は、いわばグループ名のようなものと考えてよいでしょう。

## II サムエル記下 23 章 8～39 節の解説

## 【8 節】

ハクモニ人イシュバアル。この人は三勇士の頭である、と紹介されています。「槍を振るって一度に八百人を刺し殺した」とあります。想像を超えた戦闘能力です。

人は、この御言葉を大袈裟である、と考えたり、あるいは現代の人権意識に立って残酷であると考えたりするかもしれません。あるいは、旧約聖書の時代は、福音を知らないため、このようなことが行われたのである、という人もいるでしょう。

しかしここで聖書のいう勇士は「主の救いによって強められた者」のことでした。そうすると、勇士の強さは、主が救いをとおして与えた賜物である、ということになります。だからこそ、その強さは、常人を超えるものである、と告げています。

アホア人ドドの子エルアザル。対ペリシテ戦で、味方が退却する中で一人戦い続け、イスラエルに大勝利をもたらした。

ハラリ人アゲの子シャンマ。対ペリシテ戦で、レンズ豆の豊かに実った畑を守った、主は大勝利をもたらした。

## 【13～17 節】

三勇士の活躍のエピソード。アドラムの洞窟に潜伏していたダビデが渇きのため、「ベツレヘムの城門の傍らにある、あの井戸の水を飲ませてくれる者があればよいのに」と言いました。すると、三勇士たちは、「ペリシテの陣を突破し、」ダビデのもとに、ベツレヘムの城門の傍らの井戸から汲んだ水をもってきました。そこでダビデは、水を主なる神にささげました。

## 【18～23 節】

ツェルヤの子、ヨアブの兄弟アビシャイ。この人が三勇士だけでなく全体の頭です。ヨアブは勇士に数えられていません。アビシャイは槍を奮って三百人を刺し殺しました。彼は三勇士の中で最も重んじられた人です。また三勇士の長でありました。しかし武勲は三勇士に及ばなかったのです。いわゆる戦闘能力と統治能力は別の能力です。

ヨヤダの子ベナヤ。「多くの功を立てた」と紹介されています。その中から聖書は以下の三つのエピソードを紹介しています。

- ①モアブのアリエルの二人の息子を倒す
- ②ライオンを倒す
- ③屈強のエジプト人を倒す。

ここでは、②の「ライオン」という野の獣が中心です。すなわち①も③も、イスラエルの民からすると、何ほどこ野の獣的な存在ということでしょう。

## 【24～38 節】

ここは、いわば集合写真のように、31 名の勇士たちの名前が紹介されています。

- ①アサエル、ヨアブの兄弟
- ②ドトの子エルハナン、ベツレヘム出身

- ③ハロド人シャンマ
- ④ハロド人エリカ
- ⑤パルティ人ヘレツ
- ⑥イケシュの子イラ、テコア人
- ⑦アナトト人アビエゼル
- ⑧フシャ人メブナイ
- ⑨アホア人ツァルモン
- ⑩ネットファ人マフライ
- ⑪バアナの子ヘレブ、ネットファ人
- ⑫リバイの子イタイ、ベニヤミンのギブア出身
- ⑬ピルアト人ベナヤ。ヒダイ、ガアシユ川の出身
- ⑭アルバト人アビ・アルボン
- ⑮バフリム人アズマベト
- ⑯シャアルボン人エルヤフバ
- ⑰ベネヤシェン
- ⑱ヨナタン
- ⑲ハラリ人シャンマ
- ⑳シャラルの子アヒアム、アラル人
- ㉑アハスバイの子エリフェレト、マアカ人の子孫
- ㉒アヒトフェルの子エリアム、ギロ人
- ㉓カルメル人ヘツライ
- ㉔アラブ人ペアライ
- ㉕ナタンの子イグアル、ツェバ出身
- ㉖ガディ人バニ
- ㉗アンモン人ツェレク
- ㉘ベエロト人ナフライ、ツェルヤの子のヨアブの武具を持つ者
- ㉙イエテル人イラ。
- ㉚イエテル人ガレブ
- ㉛ヘト人ウリヤ。

幾つかのことを記しておきます。

名前は、固有名詞です。その人固有ということですから、時代や状況によって変わることがないということです。そのことを根本から保証しているのは、神御自身が彼らを固有の存在として認めておられる、ということです。

名前は、「〇〇の子」か「〇〇人」と共にでできます。この「〇〇人」は人種や民族のことではなく、ある町や村の出身という意味です。

またダビデの姉ツェルヤには、ヨアブ・アビシャイ・アサエルの三人の子供がいました。このうちヨアブは戦好きでしたが、勇士に数えられていません。

最後には、バトシェバの夫ウリヤが登場しています。彼もまた勇士だったのです。